



認定特定非営利活動法人(認定NPO)

インド福祉村協会

会報

2009.5.1

Vol.18

India Welfare Village Society News

ホームページ <http://iwvs.web.infoseek.jp/> (ボランティア 募集中)
特定寄付金に税制上の優遇措置が認可

1998年11月開院以来、早や11年目を迎えました。日本の多くの方々のご支援とインド関係者の協力によりインドの人々に医療を提供できたことをお礼申し上げます。

開院10周年目の2008年(平成20年)度は2000名の患者が訪れ、10年間で20万人の人々に貢献できました。また、JICA草の根技術協力による「保健衛生教育と人材育成」は着々と発展し、妊婦、婦人、子供達への衛生知識は普及しております。特に、小学校での衛生教育、頭ジラミの無料治療は人気があります。

更なる日本の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



(STAFFの新年祝賀会)



(アーナンダ病院全景)

インド福祉村病院(現地名 アーナンダ病院)
開院11年目…保健衛生教育発展

クシナガラ(北インド・UP州)

インド福祉村病院は、皆様方のご支援に支えられ、インドの貧しい部落の人々の健康を守るとともに、インドの子供達の衛生教育に貢献してきました。

インドでは、駅や観光地など各所で物ごいや物売りの多さに驚きます。最近では、経済の成長でだいぶ少なくなってきたようですが、今なお貧困対策は、インド政府の重点課題となっています。特に、世界を同時に襲った恐慌の影響は、インドにもインド福祉村協会にとっても影響が出ています。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。



(山本理事長とインドからの研修生)

**みんなの力で
みんなの幸せを**

理事長 山本孝之

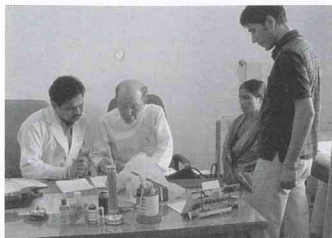
これからの10年の展望

柴田昌雄(インド福祉村協会理事)

インド福祉村病院(現地名アーナンダ病院)が開院してから、本年3月で11年5カ月になります。その間20万人近くの患者さんを治療することが出来ました。偏に皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。お蔭様で当病院は今や地域にとつてなくてはならない医療施設となりました。1日70~100名の患者さんが来院しております。この様な背景のもと、これからの10年を展望して病院をどの様に発展させ、運営して行くかが現在の重要な課題です。

インドの人々と共に学び合い、医療を通じて同じ価値感を共有し、共に生きてゆくと云う設立の理念を継承しながら、変化する社会に対応して病院を運営していく事が基本であると考えております。我々(日本側)としては可能な限りの支援を続けながら、将来的には現地のインドの人々の自立の下に運営されることを念願しています。一方、日本の若い人たちが参加して下さって理念の継承が行われることが大切であると考えています。終わりに私は自分の人生の中でこのプロジェクトに関わられた事を心から有難く思っております。

合言葉



(柴田医師とGupta医師)



(待合室のビデオ教育)

開院10年目のあゆみ

アーナンダ病院院長 P.N.グプタ

日本の皆様のご支援とインド福祉村協会の協力により開院10年目(平成20年度)は過去最高の24,237名の患者を診察し、10年間で総計約21万人のインドの人々に貢献することができました。長年の病院職員の努力とインドの人々の信頼が10周年を迎えられた要因だと感謝いたしております。

JICA計画、JPP事業では6名の日本の医療現場保健衛生の研修をうけることができ有意義な日本訪問でした。ありがとうございます。JPP事業ではプロジェクトマネージャー加藤伸也先生の献身的な指導のもとにSTAFFが積極的、自主的に保健衛生講習をおこない村民が喜んで参加しております。婦人、妊婦、子供たちの保健衛生教室、小学校の学生指導、頭ジラミ治療も更に発展、期待されております。

11年目は更に親切な診療と保健衛生教育に励む決意です。日本の皆様ぜひインド訪問の折はアーナンダ病院にお越しください。

【来院患者疾患名(上位)】

1位 気管支喘息	6位 関節リュウマチ
2位 胃潰瘍	7位 ウイルス感染症
3位 貧血	8位 筋肉痛
4位 トリコモナス症	9位 高血圧
5位 気管支炎	10位 肺結核

【風土的疾患】

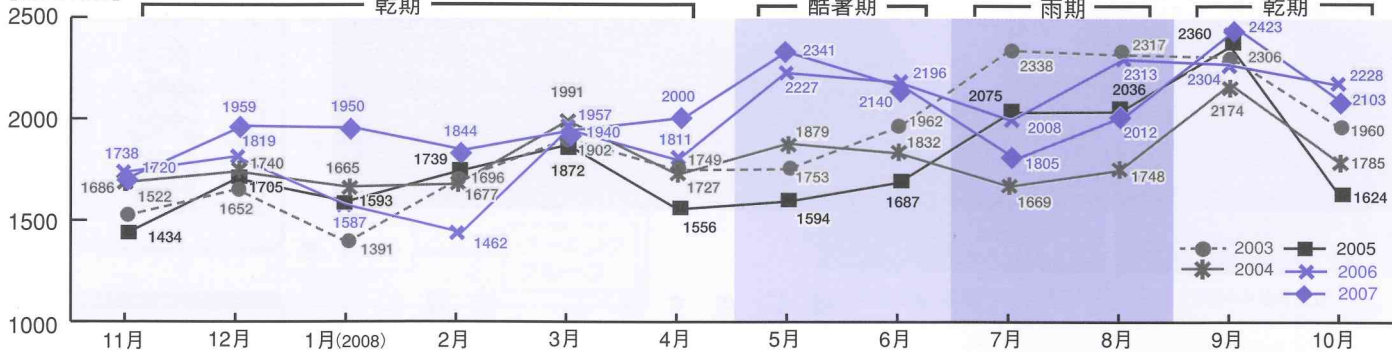
1) マラリア	6) アメーバ赤痢
2) フイリア病	7) 甲状腺腫
3) ハンセン病	8) 狂犬病
4) カラアザール	9) 蛇毒
5) 日本脳炎	10) 象皮病

【患者数】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
総患者	15,310名	21,140名	18,606名	16,910名	20,636名	22,578名
新来患者	6,756名	7,946名	6,247名	5,593名	7,547名	8,191名
再来患者	8,554名	13,194名	12,359名	11,317名	13,089名	14,387名

	7年目	8年目	9年目	10年目	統計
総患者	21,573名	21,275名	23,650名	24,237名	205,915名
新来患者	8,274名	8,143名	9,227名	9,680名	77,604名
再来患者	13,299名	12,800名	14,423名	14,557名	127,979名
男性 36% 女性 64% 小児 10%					

【総患者数】



(小学校での衛生教育)

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL : 91-92354-24671 / 91-5564-217544

住所 : VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

インド福祉村病院訪問記

IWVS事務局長 武田和敏

インド福祉村協会の事務局を前任者から引継いで約5年。その間色々な話を、協会関係者や日本に來たグプタ先生はじめ現地スタッフのみなさんから聞いていました。しかし、インドを知るには、実際を見るのが一番だと思っていました。今回縁あつて、9月16日から22日まで愛知県国際交流協会からの助成金による結核治療の現地視察のため、初めてインドを訪れる機会に恵まれました。

インドに出かける直前にデリーで爆弾テロがあり、少し心配もしましたが、それよりも現地の交通事情の方が、怖かったというのが率直な感想です。病院は、グプタ院長を中心にしつかりと運営されているとの印象が強く、患者さんの数や敷地内も含め院内の清潔に気が配られた様子からも容易に図り知ることができました。また、現在取り組んでいるJPP事業も、教育ホールを使つて婦人や妊婦さんへの衛生教育など順調に進んでいるようでした。上を見れば切りがありませんが、今後現地のみなさんの幸せと、健康を少しでも守ることができるよう微力ではありますが、がんばっていききたいと思ひます。



(病院スタッフとともに)



(小学校歓迎踊り)

JICA事業に参加

JPPプロジェクトサブマネージャー 仲井美由紀・芝山章子

JICAプロジェクトで軌道に乗ってきた、妊婦学級と子ども達を対象にしたシラミクリニックの支援と補助を1月末から5日間ほどシナガラで滞在しました。

到着した日はちょうど金曜日で、週一回開催されている11時半からの妊婦学級、シラミクリニック、小学校での衛生教育を見学させていただきました。その日の妊婦学級はスーマンさんとウルミナさんお二人の女性スタッフで運営されており、女性が参加しやすい状況になっていました。10歳〜60歳までの参加者ではほぼ満席、ファミリープランニングのピクチャーブックを活用しつつ、お話を交えてやつて見えるようです。その日話した内容、質疑応答の記録などがある

と、今後の参考にしていけると思ひました。

シラミクリニックは80名を超える受診者がやってくる時もあると、口コミでどんどん広がっているようです。シラミ陽性率は毎回90%前後。お菓子の無料配布の数も大変なつてきています。シラミがいなくても、真菌感染を起こしている児もおり、洗髪を含め、衛生教育の必要性を感じました。いろいろな種類、成長過程のシラミを見る機会を得たおかげで、翌週身体計測のために訪問した小学校の子どもたちの頭にシラミを容易に見えようになり、ヘルスチェックの機会にシラミタリニクの案内をしたり、衛生教育をする必要性を痛感しました。

シラミクリニックの後は、小学校へ衛生教育に行かれる、加藤さん、スーマンさんについて、1つの小学校を訪問しました。400人近い子どもたちで、小さな校庭が埋まってしまうほど。そこでスーマンから手洗い、洗髪、沐浴などを進めるお話があり、子どもたちはしんと聞いてくれました。実際に手洗いなどの衛生的な行動がどの程度定着しているのか効果判定もできるとよいのに、と思ひます。お話のあと、日本からの珍客に歓迎の意を表し、歌を披露してくれ、楽しい時間を過ごしました。

アーナンダホスピタルのスタッフも、少しずつ入れ替わりがあり、新しい風が吹いています。より充実した医療を提供できるのではないかと、期待します。



(スタッフ一同と共に)

JPP事業日本研修報告

大竹純一(理事)

JPP事業インドスタッフ日本研修報告

第2回(平成20年8月31日から9月6日)
Ram Prasad Singh(会計士)・Narendra Singh Ranaut(調整員)
第3回(平成21年8月31日から9月4日)
Satish Kumar(薬品助手)・Vikrama Divvedi(受付助手)

JICA計画「北インド農村民への保健衛生教育と人材育成」の推進のため上記現地スタッフの日本研修を行いました。

医療法人生寿会かかわる病院(名古屋)／福祉村病院各施設(豊橋)／豊橋市母子保健センター／こども未来館(豊橋)／名大病院、愛知医大各施設／長久手保健センター／瀬戸やすらぎ会館／JR名古屋セントラル病院／JICA中部国際センター
右記各病院及び各保健センターで、日本の保健衛生の基礎的役割を見学し、妊婦母子健康検診や感染症予防教育を研修しました。特に豊橋市母子保健センターでは「ババママ教室」に参加し、母子健康手帳配布による母子衛生の必要性を理解しました。見学後研修生は「インドでは妊婦の外出が困難であったり、母子健康手帳の存在すら知らない婦人が多く、妊婦死亡率、乳幼児死亡率も高いのが現状です。アーナンダ病院で日本のように妊婦教室を受けるシステムを確立したい」と感想を述べました。帰国後の活躍が大いに期待されます。

またIWVSとJICAとの協同事業の発展のため、JICA中部国際センターを訪問しました。今後の事業向上のため尽力することを約束しました。
2007年11月の現地リーダーDr.グプタ現地サプリーダーMs. Nidhiの研修に続き、今回も実り多き研修であったことを報告致します。



(新JICA訪問挨拶)／第3回研修



(JICA中部訪問挨拶)／第2回研修

2008年のあゆみ

08.4月	JICA JPP事業 H20年度継続契約 初診料 2Rsから5Rsに増額	12月	加藤伸也(PM) インドNGO-JICA連携講習会参加(ブネ) 大竹紘一(理事) JICA 中部NGOネットワーク連絡会参加 大竹紘一(理事)、佐藤峰子(北大医学生) 病院訪問(JPP事業) 加藤伸也(JPP PM)帰国
5月	IWVS理事会・通常総会 インド日本大使館 半井麻美女史病院訪問	09.1月	臨床検査技師 Zilani採用 PCコントローラー Sunil Kumal採用 第6回ワーキンググループ勉強会 (JPP事業検討) 仲井美由紀、芝山章子(看護師) 病院訪問(JPP事業) 加藤伸也(JPP PM)病院訪問(JPP事業) JICS NGO支援事業決定 認定NPO法人再認可 (H21年2月1日~H26年1月31日 5年間)
6月	アイセック講演会(大竹理事参加) 第4回ワーキンググループ勉強会 (JPP事業検討)	2月	加藤伸也(JPP PM) JICA ND海外安全講習会参加 中村義博(理事)病院訪問
7月	臨床検査技師 Gyan・P退職 愛知県国際交流協会(I-net) 助成金交付決定	3月	柴田昌雄(理事)病院訪問 (I-net事業 JPP事業支援) JICA ND 飯塚裕貴子女史病院訪問 Vikrama, Satish 日本研修(JPP事業) 加藤伸也(JPP PM)帰国 IWVS理事会・臨時総会
8月	大竹紘一(理事)病院訪問 Sighn, Narendra 日本研修(JPP事業)		
9月	加藤伸也(JPP PM)病院訪問(JPP事業) 武田和敏(事務局長)病院訪問(I-net事業) 加藤綾、久保田泰加、小宅真弓(看護師) 病院訪問 IWVS理事会		
10月	第5回ワーキンググループ勉強会 (JPP事業検討) JICA ND職員病院訪問		
11月	JICA ND 山田洋次次長 ご両親病院訪問 中村義博(理事)病院訪問		

婦人・妊婦生活指導検診

1回から53回
合計1149名 妊婦292名 検査妊婦83名
54回目(12/26) 17名参加(妊婦2名)
55回目(1/2) 18名参加
56回目(1/9) 13名参加
57回目(1/16) 20名参加(妊婦1名 検査妊婦1名)
58回目(1/23) 31名参加(妊婦2名 検査妊婦2名)
59回目(1/30) 21名参加(妊婦1名)
60回目(2/6) 16名参加(妊婦2名)
61回目(2/13) 18名参加(妊婦2名)
62回目(2/20) 18名参加(妊婦2名)
63回目(2/27) 23名参加(妊婦4名)
64回目(3/6) 18名参加(妊婦2名)
65回目(3/13) 42名参加(妊婦2名)

合計 255名(妊婦20名 検査妊婦3名)
総合計1404名(妊婦312名 検査妊婦86名)
参加者にPR拡大。
妊婦と共に祖母、子供達多数参加。

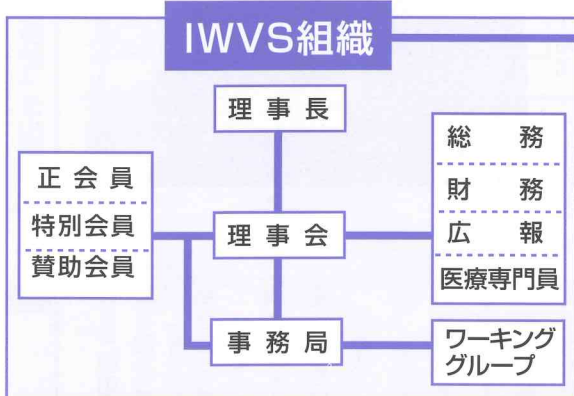
認定特定非営利活動法人
(認定NPO)

インド福祉村協会

(IWVS)

インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就学児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院(アーナンダ病院)を開設、運営を行っています。

ホームページ <http://iwvs.web.infoseek.co.jp/>



現地法人 ANANDA MISSION CHARITABLE TRUST

インド福祉村病院(アーナンダ病院)*

*アーナンダ:お釈迦様の高弟の一人



(愛知医大と救急ヘリコプター)



(頭じらみ治療受付)

入会のお願ひ

正会員: 年会費 5,000円 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。
特別会員: 100,000円(一〇以上) 代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。
賛助会員: 年会費 1,000円(一〇以上) 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

【会費・寄附の支払い方法】

郵便振替 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。
 ご一報いただければ用紙をお送り致します。また、入金が確認されましたら領収書を送らせていただきます。寄附金は、税制上の優遇措置が受けられます。
郵便振込(口座番号) 00830-2-65008 (加入者名) インド福祉村協会

募金のお願ひ!

少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)
 理事長/山本孝之(さわらび会理事長)
 常務理事/中村義博(株)トラベルサライ社長 理事/柴田昌雄(愛知学院大前教授)
 理事/高木元昊(前慈尊寺住職)事務局長/武田和敏 ほか
 ホームページ/<http://iwvs.web.infoseek.co.jp> E-mail/iwvs@post.sala.or.jp

■発行者 インド福祉村協会 (IWVS)
 ■発行人 大竹紘一 加藤伸也 ■編集 文創社
 ■インド福祉村協会事務局(若菜荘内)
 〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字山中19-12
 TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365